

教育民生委員会記録

開会年月日	平成30年11月20日
開会時刻	午後0時57分
閉会時刻	午後1時37分
出席委員名	◎中山裕司 ○福井輝夫 宮崎 誠 久保 真
	楠木宏彦 辻 孝記 品川幸久 藤原清史
	浜口和久
	西山 則夫 議長
欠席委員名	なし
署名者	宮崎 誠 久保 真
担当書記	野村格也
審査案件	継続調査案件 所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査について
	継続調査案件 伊勢市病院事業に関する事項 ・新市立伊勢総合病院の建設について
	継続調査案件 伊勢市立小中学校の規模・配置の適正化に関する事項 ・小中学校適正規模化・適正配置推進事業(進捗状況)について
	継続調査案件 子ども子育て支援に関する事項 ・乳幼児期の支援について
説明員	情報戦略局長、情報戦略局参事、財政課長
	病院経営推進部長、病院経営推進部次長、病院総務課長、
	医療事務課長
	教育長、事務部長、学校教育部長、教育総務課長
	教育研究所長、学校統合推進室長
	健康福祉部長、健康福祉部次長、健康課長、こども課長
ほか関係参与	

審査経過

中山委員長が開会を宣言し、会議成立宣言の後、会議録署名者に宮崎委員、久保委員を指名した。その後、直ちに議事に入り、継続調査案件となっている「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査について」、「伊勢市病院事業に関する事項」、「伊勢市立小中学校の規模・配置の適正化に関する事項」及び「子ども子育て支援に関する事項」を順次議題とし、当局から報告、報告への質疑を行い、「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査について」は調査を終了とし、その他については今後についても継続して調査をすることを決定し、委員会を閉会した。

なお、詳細は以下のとおり。

開会 午後0時57分

◎中山裕司委員長

それでは、ただいまから教育民生委員会を開会をいたします。

本日の出席者は全員でありますので、会議は成立をいたしております。

これより会議に入ります。

会議録署名者2名は委員長において、宮崎委員、久保委員の御両名を指名をいたします。

本日御審査いただきます案件は、お手元に配布の案件一覧表のとおりであります。

議事の進め方につきましては、委員長に御一任願いたいと思っておりますが、御異議ございませんか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

◎中山裕司委員長

御異議なしと認めます。そのように取り計らいをさせていただきます。

また、委員間の自由討議につきましては、申し出がありましたら、随時行いたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。

【所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査について】

◎中山裕司委員長

それでは、「所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査について」を御審査願います。

当局の説明をお願いします。

財政課長。

●大西財政課長

それでは、所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等の調査につきまして、御説明申し上げます。資料1をごらん下さい。この度、御説明申し上げます予算の執行状況等は、各常任委員会から御指示のありました施策事業について、作成したものでございます。お手元の資料につきましては、16事業の進捗状況をお示ししております。教育民生委員会所管分の執行状況につきましては、7ページから11ページに掲載の5事業が該

当いたします。

7 ページをお開きください。まず、様式について、御説明いたします。上段から、事業目的の欄には、予算説明資料でお示ししました概要を、事業内容の欄には、当初予算編成時に想定した内容、計画等を、進捗状況の欄には、特に断りがないものについては、本年 11 月 1 日時点における予算執行上の現状を、事業を取り巻く状況等の欄には、予算編成時点と予算執行時点との変更点等、差異が生じている理由や、事業執行に伴い生じた課題、問題点などを記し、現状の分析を行っております。

また、下段の事業費欄に現計予算額等を記してございますが、執行済額は 9 月末時点での支出負担行為済額を記しております。

それでは、各事業の概略について、御説明いたします。

7 ページをお願いします。健幸ポイント事業です。

本件につきましては、健康づくりに無関心な方の参加を促すため、ウォーキング等の活動をポイント化し、自ら健康づくりを行う仕組みをつくり、介護予防の推進を図るものです。

執行状況といたしましては、第 3 期生の募集を行い、1,000 名の方が参加し、参加総数は 3,000 名となっております。また、第 1 期生の継続支援として、歩数、体組成データなどの閲覧を可能としたほか、イベント等を開催しました。今後は、取り組み期間が終了した参加者への継続的な支援と、医療費抑制等の効果の評価を行い、来年度以降の事業のあり方について検討を進めてまいります。

次に、8 ページをお願いします。生活困窮者自立支援事業です。

本件につきましては、生活困窮者に対し、包括的な支援を行い、困窮状態からの早期の脱却を図るとともに、将来における貧困の連鎖の防止に向けた取り組みを行うものです。

執行状況といたしましては、福祉の総合窓口として開設をいたしました伊勢市生活サポートセンター「あゆみ」において自立相談、家計相談等を行っております。

また、学習支援員による家庭訪問等による継続的な相談、支援を行っているほか、市内の公共施設等で、学習支援を行っております。

生活困窮者自立支援法の改正により、家計改善支援及び就労準備支援については、任意から努力義務となりました。今後も、国の動向を注視しながら、事業内容を精査し、継続的な支援を行いたいと考えております。

次に、9 ページをお願いいたします。産後健康管理事業です。

本件については、産婦健康診査及び生後 1 カ月児の健康診査の費用を助成し、母子の健康を保護するとともに、新生児への虐待予防等を図るものでございます。

執行状況といたしましては、5 月 1 日から事業を開始し、8 月末時点の受診者数は、産婦健康診査では延べ 412 名、生後 1 カ月児の健康診査では延べ 251 名となっております。健康診査におきまして、医療機関等から要指導の報告がされた場合は、保健師による訪問等による支援や、医療機関との連携を図っております。

次に、10 ページをお願いします。通学安全対策事業です。

本件につきましては、遠距離通学を行う児童、生徒に対して、スクールバスの運行及び通学定期券の現物給付など、児童生徒の通学上の安全確保を図るものです。

執行状況といたしましては、伊勢宮川中学校、二見浦小学校のスクールバス等の運行

のほか、中島小学校ほか2校の児童211名に通学定期券の現物給付を行いました。今後もスクールバス等の運行を含め、児童生徒の通学上の安全確保を図ってまいります。

次に、11ページをお願いいたします。次世代ICT教育推進事業です。

本件につきましては、第2期教育振興基本計画に基づき、ICT教育の推進を図るものです。

執行状況といたしましては、小学校12校にタブレットパソコン445台を配置いたしました。また、これまで一部の中学校でインターネット型ドリル学習システムを導入し、学習支援の有効性を検証してきましたところ、有効性が認められたことから、全ての中学校へ導入を行いました。今後も、ICTを活用したわかりやすい授業の実現はもとより、ICTが社会生活に必要不可欠なものとなる中で、児童、生徒が適切に活用する能力を向上させたいと考えています。

以上、教育民生委員会所管事業の平成30年度進捗状況及び予算の執行状況等について、概略を御説明申し上げます。

よろしくお願い申し上げます。

◎中山裕司委員長

はいどうも、ありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、御発言はございませんか。

宮崎委員。

○宮崎誠委員

私からは、1件だけお聞かせいただきたいと思いますと思っております。

次世代ICT教育推進事業の中でですね、今回タブレットの配布ということで、小学校全校配布されたらと、1クラス分にはなりますけれども、これについては、大変評価をさせていただいた上で、さらにですね、低学年のほうでも触れるとといった、そういった学習をですね、ぜひとも進めていただきたいと思いますと思っております。

その中でですね、今回まだ執行途中だと思うんですけれども、情報セキュリティの確保ということで、コンピューターの一括管理と次世代型教育系ネットワークの構築とありますけれども、現在までも各学校別でですね、ネットワークの管理という形でセキュリティの情報への教育等もしていただいていると思うんですが、今後一括管理ということになりますので、今後のセキュリティ対策について、どういったお考えを持っているかだけお聞かせいただきたいと思いますと思います。

◎中山裕司委員長

教育研究所長。

●濱口教育研究所長

お答えします。タブレットパソコンにつきましては、今年度、委員御指摘のとおり、小学校全校に配置が完了いたしました。あす、あさってに全校で使用が可能という状態になります。

今後でございますが、さらに複数の学級でも使えるように配置は考えたいと思います。加えて中学校では、まだ2校にしか配置ができておりませんので、あわせて配置の計画を進めていく、見直していくってということも検討しております。

そして、センターサーバー化に関わってのことでございますが、今年度、委員がおっしゃっていただいたとおり、全小中学校クラウド式のセンターサーバー化を完了する予定でございますが、その運用管理につきましては、大変混乱をする危険性もございますので、コンピューター調査委員会の拡大会議を開きまして、そこでマニュアルを統一したものを作成しまして、各小中学校の代表の教員を集めまして、内容を徹底したいというふうに考えております。

以上でございます。

◎中山裕司委員長

宮崎委員。

○宮崎誠委員

今回はマニュアルを作成していただくということもありますけれども、やはり個人情報情報が漏れやすい、そういった環境にもなりやすいかと思っておりますので、ぜひとも全ての学校の先生方にですね、少しでもセキュリティ事故が起きづらいという環境に携わっていただけるように、教育のほうをぜひとも進めていただきたいと思います。

よろしく願いいたします。

◎中山裕司委員長

ほかにございませんか。

辻委員。

○辻孝記委員

少しお聞かせください。まず、9ページの産後健康管理事業について少し教えていただきたいと思っております。この、報告の中ではですね、産婦健康診査2回の部分とそれから1カ月児健康診査の関係でですね、予算の執行状況を挙げていただいております。

伊勢市において、子どもさんが産まれてくる人数大体900人前後というふうに伺っておりますけれども、執行状況見ていると、産婦健康診査が延べ412名ということで、1カ月児の健康診査が251名という数字を伺いました。この数字を見る限りですね、900人前後から考えて順当にやられておるのかどうか、まず確認したいと思います。

よろしく願いします。

◎中山裕司委員長

健康課長。

●岩佐健康課長

産後健康管理事業でございますが、この事業につきましては5月からの事業開始とな

りました。周知といたしまして、健診の受診券は新たに母子健康手帳を交付する方には窓口で渡して周知を行いまして、既に手帳の交付が終わっている方につきましては、受診券をお渡しできてない方につきましては、事業の周知とそれから医療機関、助産所に協力をいただきまして、病院での受診券交付と健診の実施をしていただいているところです。

産婦健診につきましては、産後2週間前後と1カ月前後の一人当たり2回の健診を実施する内容となっております。ただ、2回の健診を実施するかどうかということにつきましては、医師の判断によるところが大きくなっており、現在のところは。

また、従来からは産後の健診といいますと1カ月での健診ということが定着しているところがまだございますので、1カ月前後で受けて、公費負担を受ける方が多いのですが、2週間で健診を受ける方はそこまでまだ多くないということから、執行額に表れていくのではないかなと思っております。

ただ、2週間前後、1カ月前後いずれにしましても、心のチェック表のエジンバラ産後うつ病の質問票は実施をしていただいておりますので、このことから産婦健診の目的は果たしているというふうに考えておりますし、1カ月の出生数から予測すると高い割合で産婦健診、1カ月児健診とも受診をしていただいているんじゃないかなと考えております。

以上でございます。

◎中山裕司委員長
辻委員。

○辻孝記委員

わかりました、ありがとうございます。詳しい説明いただきましてありがとうございます。もう一つ、少しこの最後に書いてもらってます事業を取り巻く状況等ですね、先ほどもお話ありましたエジンバラ産後うつの関係、質問票の問題がありますが、これをしないと補助も受けられないということもありまして、例えば里帰りにです市外へ行かれる方、その辺の方々に対してのフォローアップっていうのはどのように考えておられるのか教えていただきたいと思っております。

◎中山裕司委員長
健康課長。

●岩佐健康課長

エジンバラのこの質問票を実施していない場合は、助成の対象とならないということにはなるんですけども、その場合は伊勢市に戻られましてから、赤ちゃん訪問を実施しますので、その際にこの質問票を実施しまして、産後のうつの早期発見に努めております。

以上でございます。

◎中山裕司委員長
辻委員。

○辻孝記委員

わかりました。大事な新規事業でことしから始まっている事業ですので、しっかりと進めていただきたいと思いますのでよろしくお願いします。

もう1点、先ほども宮崎委員からも話がありましたが、次世代ICT教育推進事業のことで少しお伺いしたいと思います。

ICTは、先ほどもタブレット端末が小学校全部に配置できたというお話と、今後中学校に対しても全校に配置していきたいということの話がありました。これからですね、国のほうでもいろいろとイノベーションの関係ですね、今後考えていくソサエティ5.0というのが今、国のほうでは進められておられるというふうに伺っております。このソサエティをやっていく上でですね、大事な部分としては、教員の関係の方々がどこまでその技術的な部分で力を持っておられるのか。これに書いてもらっている中では、ICTを活用して指導を行うことができる教員の割合は9割を超えているというふうには書いてもらっておられるんですが、ICTを活用する部分でも、様々レベルがあるかと思いますが、その辺の状況というのはどこまでつかんでいるのか教えていただけますか。

◎中山裕司委員長

教育研究所長。

●濱口教育研究所長

御指摘いただいたとおり、教職員の活用のスキルには差があるのは否めないかと思えます。ただ、ICT機器といいますが、タブレットパソコンだけではございませんでして、全教室に実物投影機とプロジェクター、セットで置かせていただいております。その活用は随分進んでおりますので、それについては教員が進んで使えているというふうに思えます。タブレットパソコンにつきましては、どんどん活用を進めていきたいところでございますので、研修講座を開いたり、あるいは教育研究所にICT支援員がおりますので、計画的に派遣をしまして、今年度も全校に派遣をしておりますが、それを活用して、より教員が使いやすいように、気軽に質問ができるようになっていこうというふうな体制を整えて進めていきたいと考えております。

以上です。

◎中山裕司委員長

辻委員。

○辻孝記委員

わかりました。ありがとうございます。先ほどICT支援員の配置をされているということでございました。ICT支援員はなかなか全校にできれば配置していただくのが1番いいのかなというふうに思いますが、その辺のところの状況とですね、今後の取り組みについて少しお聞かせ願いますでしょうか。

◎中山裕司委員長
教育研究所長。

●濱口教育研究所長

ありがとうございます。現在、伊勢市に各校に派遣をさせていただくICT支援員は3名おりますが、今後その汎用性を高めていく上では、さらに支援員の数をふやすということも一つというふうなことは検討しております。ただ、予算のこともございますので、今後検討はしてまいりたいと思いますが、ICT支援員を配置すること、派遣することで、先ほども申し上げましたが、教員が大変助かっているという声は聞いております。文科省のほうからも、それについては推進するような方針も出ておりますので、検討してまいりたいと思います。

以上でございます。

◎中山裕司委員長
辻委員。

○辻孝記委員

わかりました。ありがとうございます。ICT支援員の派遣のことですが、人数的なことも含めてですね、今後の課題としてあるのかなというふうに思っています。予算執行状況を見ていきますと、今現在執行済額が予算のとおり、現額からいくと半額程度執行されております。先ほど話がありました情報セキュリティの関係で、あと残りの部分が大半行くのかなというふうには思っておりますけれども、今後の課題として先ほどのICT支援員とか、タブレットの関係とか含めてですが、子どもたちが社会に出るときにですね、早く情報的なことで社会に追いつけるような状況をですね、環境をつくっていただきたいと思いますので、どうかよろしくお願いします。

以上です。

◎中山裕司委員長
ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、説明に対する質問を終わります。

続いて、委員間の自由討議を行います。御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、自由討議で終わります。

本件につきましては、今回の審査をもって調査を終了するというところで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御異議なしと認めます。

本件については審査を終了いたします。

【伊勢市病院事業に関する事項】

〔新市立伊勢総合病院の建設について〕

◎中山裕司委員長

次に、「伊勢市病院事業に関する事項」についての御審査を願います。

「新市立伊勢総合病院の建設について」、当局からの説明をいただきたいと思います。

医療事務課長。

●山口医療事務課長

それでは、「新市立伊勢総合病院の建設について」御説明申し上げます。

資料2をごらん下さい。「1. 新病院の病棟構成について」でございますが、新病院の開院に向け準備を進めるにあたり、建設基本計画から病棟構成に変更が生じてきましたので御説明申し上げます。新病院の病棟構成につきましては、資料(2)のとおり医療法上の病床種別が一般240床、療養60床の合計300床で計画しておりましたが、資料(3)のとおり一般260床、療養40床に変更し、合計300床にしたいと考えております。

今回の変更につきましては、療養病棟の患者様の大部分が御自宅や施設に退院されており、在宅復帰に向けた医療や支援、リハビリ等を行う地域包括ケア病棟に適した患者様が多いことから、療養病棟を廃止し、地域包括ケア病棟を新設、充実させるものでございます。

また、伊勢志摩地域医療構想においても回復期機能の充実が求められており、当院としましても地域に必要な急性期医療を担うほか、回復期の充実や緩和ケア病棟の新設等、将来的に不足する病床機能を確保しようとするものでございます。

なお、現病院の病棟構成につきましては、資料の(1)のとおりでございますので、参考に御参照ください。

最後に、先般御報告をさせて頂いております新病院の免震装置についてでございますが、皆様方には多大なる御心配をおかけし、申し訳ございませんでした。先日御通知申し上げたとおり、国土交通省が定める安全検証方法に基づいた構造解析の結果、想定できる最大規模の地震にも耐えられるという結果が得られたところでございます。

今後は、施工業者を通じて、速やかに大臣認定等の内容に適合する製品に交換するよう要請していくこととしておりますので、御理解賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

以上、「新市立伊勢総合病院の建設について」御説明いたしました。

よろしく御協議賜りますようお願い申し上げます。

◎中山裕司委員長

はい、ありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、御発言ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、説明に対しての質問を終わります。

続いて、委員間の自由討議を行います。御発言ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、自由討議を終わります。

以上で、「新市立伊勢総合病院の建設について」を終わります。

「伊勢市病院事業に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御異議なしと認めます。

本件については、引き続き調査を継続いたしてまいりたいと思います。

【伊勢市立小中学校の規模・配置の適正化に関する事項】

【小中学校適正規模化・適正配置推進事業（進捗状況）について】

◎中山裕司委員長

次に、「伊勢市立小中学校の規模・配置の適正化に関する事項」についての御審査を願います。

「小中学校適正規模化・適正配置推進事業（進捗状況）について」、当局からの説明を願います。

学校統合推進室長。

●丸山学校統合推進室長

それでは、伊勢市立小中学校適正規模化・適正配置推進事業につきまして、御報告いたします。

まず資料3をごらんください。まず、1ページ(1)説明会等の実施状況ですが、11月1日現在実施回数は記載のとおりとなっております。(2)の統合準備会の開催につきましても、記載のとおりでございます。

1枚めくっていただいて2ページをごらんください。本年度の説明会等の一覧表となっております。早修・中島・佐八小学校の統合と、二見浦小・二見中の高台移転についての説明会を行っております。

次に3ページは、豊浜・北浜中学校統合準備会等の一覧表、続きまして4ページは神社・大湊小学校統合準備会等の一覧表となっております。

次に、統合校別に進捗を御報告申し上げます。5ページをごらんください。豊浜中学校・北浜中学校の統合につきましては、建築工事の10月末現在の進捗状況が、校舎、体育館とも約90%で、資料の写真①、②のとおり、建物の外観が見えるようになってまい

りました。この年末には建築工事が完成する予定となっております。また、グラウンド等の土木工事にも着手しており、資料の写真③、④のとおり、防球ネットの支柱が立ってまいりました。土木工事は年度末に完成する予定となっております。そのほか、備品購入などの準備も進めておりまして、来年4月の開校に向けて順調に進んでいるところでございます。

次に、6ページをごらんください。神社小学校・大湊小学校の統合につきましては、本年7月から敷地の造成工事に着手をしております。敷地の中央を通っております道路や水路の撤去を終え、地盤改良を行っているところでございます。また、統合準備会におきましては、通学路や校歌・校章について御検討いただいております。校章につきましては、デザイン案を地域の方等を対象に公募することを決定いたしました。

最後に、資料にはございませんが二見浦小・二見中学校の移転につきましては、保育所の統合移転予定地とあわせて敷地の測量を実施しているところでございます。

以上、小中学校適正規模化・適正配置推進事業の進捗状況について、御報告申し上げます。よろしくお願い申し上げます。

◎中山裕司委員長

はいどうも、ありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、御発言ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、説明に対しましての質問を終わります。

続いて、委員間の自由討議を行います。御発言ございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、自由討議を終わります。

以上で、「小中学校適正規模化・適正配置推進事業（進捗状況）について」を終わります。

「伊勢市立小中学校の規模・配置の適正化に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御異議なしと認めます。

本件については、引き続き調査を継続いたします。

【子ども子育て支援に関する事項】

〔乳幼児期の支援について〕

◎中山裕司委員長

次に「子ども子育て支援に関する事項」についてを御審査願います。

「乳幼児期の支援について」、当局から説明を願います。

こども課長。

●藤原こども課長

「子ども子育て支援に関する事項」、「乳幼児期の支援について」御説明いたします。

資料4-1を御高覧ください。ライフステージごとの子ども子育て支援を御説明させていただいており、前回8月27日の教育民生委員会におきましては、妊娠、出産・産後期の支援について御説明いたしました。本日は乳幼児期の支援のうち、子どもをお預りする事業について御説明をさせていただきます。

まず、「1. 保育所・幼稚園・認定こども園等」について御説明いたします。

(1)の利用状況でございますが、資料4-2をごらんください。本年11月1日現在の幼稚園の利用状況でございます。幼稚園については、概ね利用希望に対応できている状況でございます。裏面には保育所等の利用状況をまとめておりますので、後ほど御高覧くださいようお願いいたします。私立保育所13園で定員を超えております。

次に(2)の平成31年度の入所申込状況でございます。資料4-3をごらんください。幼稚園につきましては、公立のみとなっております。私立幼稚園につきましては、各園で入園受付を行っており、現時点では把握をしてございません。裏面は公立保育所の状況、次のページが私立保育所の状況でございます。11月1日時点での集計であり、今後変動もございます。定員を超える園や年齢ごとの人数を踏まえて、今後各園と調整し、1月末頃に入所決定する予定です。

次に(3)の入所状況の推移について資料4-4をごらんください。中段のグラフを見ますと私立保育所の利用が増加しております。私立保育所の利用者の伸びは、私立幼稚園が認定こども園に移行し、保育の受け皿が拡充されたことによると考えられます。下段のグラフをごらんいただきますと、就学前児童数は減少しているものの、保育所・幼稚園利用児童の減少はごくわずか、ほぼ横ばいであり、2歳以下の低年齢児の利用は増加しております。資料4-2の保育所の入所保留の状況においても、2歳以下が大部分を占めており、低年齢児のニーズの高まりがうかがえます。ゼロ歳児には3人に1人の保育士、1・2歳児には6人に1人の保育士が必要であり、2歳以下の低年齢児のニーズの高まりに応じて保育士も必要とされております。

次に(4)の待機児童対策でございます。①の定員拡充については、幼稚園の認定こども園化、小規模保育事業の実施により、保育の受皿拡充に取り組んでおります。平成31年度にはさらに、めいりんこども園と中島こども園が開設される予定です。また、保育所しらとり園において、新たにゼロ歳児からの受け入れに対応できるよう現在準備を進めております。

②の保育士確保につきましては、任期付職員の採用や柔軟な雇用形態により、保育士の確保に取り組んでおり、今後は保育業務におけるICT化などの業務改善に取り組み、保育士の働きやすい環境整備を進めてまいります。また、私立保育所に対しましては、保育士を確保できるよう、人件費の補助をしているところですが、今後も有効な方策について検討を進めてまいります。

次に、裏面をお願いします。保育所等以外の保育事業でございます。

「2. 病児・病後児保育」につきましては、病気のために集団保育が困難な児童を一時

的にお預りするもので、神田小児科に委託して実施しております。

「3. ファミリー・サポート・センター」につきましては、子どもを預けたい依頼会員と預かることができる提供会員による会員組織です。会員の募集、養成や利用調整の業務をNPO法人に委託して実施しております。

「4. 一時保育」につきましては、保育所等を利用されていない児童を、保護者の傷病や育児疲れの解消等のために一時的にお預かりするものです。市内4箇所で開催しております。

この事業につきましては、利用に当たっての手續が煩雑であるとの声もあることから、利用者の利便性向上に向けて手續を見直し中であり、12月市議会定例会におきまして条例改正案を提出したいと考えております。

次に「5. 子育て支援ショートステイ」につきましては、一時的に養育が困難となった場合や、経済的理由等により緊急一時的な保護を必要とする場合にお預かりするもので、宿泊も可能です。市内の児童養護施設等と委託契約を締結しております。

以上のように、各種の事業により就学前の児童の保育を行っており、保育の必要な期間や事由、家庭の事情等を勘案して適したサービスを御利用いただくようにしております。

以上、乳幼児期の支援のうち子どもをお預かりするサービスについて御説明いたしました。

よろしく願いいたします。

◎中山裕司委員長

はい、どうもありがとうございます。

ただいまの説明に対しまして、御発言ございませんか。

浜口委員。

○浜口和久委員

すみません、ちょっと1点確認をさせていただきます。この(4)の待機児童対策の丸の3番目ですね、公立保育所における受入拡充ということで、しらとり園のことなんですが、施設の改修を行った上で、施設の改修はいつ頃までに終わるのか、また平成31年からゼロ歳児から保育することとしたいということなんですが、資料4-3の裏面のところを見させていただきますと、申込児童数、入所児童数のところが斜線になっております。

こちら辺についてちょっと御説明お願いできますでしょうか。

◎中山裕司委員長

こども課長。

●藤原こども課長

まず、保育所しらとり園の施設の改修でございますが、現在、ゼロ歳児からの受け入れをするに当たり、どのような改修が必要であるかというところを検討を進めております。今後の必要な改修の内容によってはありますが、今年度内には改修を終えたいというふうに考えております。

また、資料4-3におきましては、申し込みに関しましては、受け入れ状況を、施設の改修のめどを見込んだ上で、募集を改めてかけていきたいと考えておりますので、現時点ではまだ申し込み受付をいたしておりません。

以上でございます。

◎中山裕司委員長

浜口委員。

○浜口和久委員

改修は今年度中に行うということで、募集がある部分に対してどれぐらいの部屋が要るとか、どんなんが要るといって改修するのと違うんですか、ちょっとそこら辺もう一度お願いします。

◎中山裕司委員長

こども課長。

●藤原こども課長

低年齢児のニーズにつきましては、非常に高いものがございます。その中で可能な限り多くの受け入れをしていきたいと考えており、施設の改修に関しまして、検討を進めた上で、施設的に可能な限りの、人数の受け入れをしていきたいと考えておりますので、募集する人員に関しても、その改修内容によって、今後決めていきたいと考えております。現時点ではゼロ歳・1歳合わせて、おおむね12名程度の受け入れはしていきたいというふうに考えております。

◎中山裕司委員長

浜口委員。

○浜口和久委員

最後なんですけど、そしたらその受け入れがまだこれ申込者数も斜線になつとるもので、その申し込みの期間って、いつ頃からになりますか。

◎中山裕司委員長

こども課長。

●藤原こども課長

施設の改修にかかる期間をですね、今後見込んだ上で、現時点では4月からの受け入れができるように進めてまいりたいと考えております。そのあたりのめどが立ち次第、改めて、周知をさせていただいて募集を開始したいと考えております。

○浜口和久委員

わかりました。ありがとうございました。

◎中山裕司委員長

ほかに、品川委員。

○品川幸久委員

2点ほどお聞きしたいんですけど、今困っとるのが保育士の数ですよ。ゼロ歳児・1歳児が1人つかないかんというところで、保育士が非常に大変な状況で、市としても任期付職員とかいろんなことを出されたんですけど、これによって保育所確保を図るといふうなことを言われとるんですけど、実際それができておるのか、できておるからこんだけの数字を出しておるのか。いやいや、それが埋まってきたらまた頑張って探さなあかんのかってところがちょっとわからないんで、そこら辺はどんな状況なんですかね。

◎中山裕司委員長

こども課長。

●藤原こども課長

保育士の人員に関しては依然として、不足をしておるような状況でございます。

ただ、不足と申し上げましても、基準上の保育士としては、充足はされておるんですけども、長時間の保育を行うことであったりとか、あと、障がいがあるなどの子どもさんの保育を行う上の加配のための要因であるとか、そういった部分での不足が生じておりますので、引き続き保育士の確保には取り組んでいかなければならないと考えております。

また、施設的な受け入れのキャパはございまして、やはり保育士の人員不足で新たな受け入れの拡充ができないというような状況も引き続き続いておりますので、今後も保育士の確保には取り組んでいく必要があると考えております。

◎中山裕司委員長

品川委員。

○品川幸久委員

もう1点だけ、私立の保育園に対しては人件費の補助とこれからいろいろと考えていきたいと言われたんですけど、そこら辺ちょっと具体的に何をどう考えとるんかだけ教えていただければ、ありがたいかな。

◎中山裕司委員長

こども課長。

●藤原こども課長

私立保育所に対しましては、これまでも様々な補助という形で、保育士の確保であっ

たりとか、処遇改善に取り組んでいただいております。

ただ一方で、私立の保育所側からはその補助が使いにくいというような声もございまして、それらを使いやすく保育士の確保、処遇改善に直接結びつけられるような、そういった補助に変えていくということを現在検討を進めております。

○品川幸久委員

ありがとうございました。

◎中山裕司委員長

ほかにございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

ないようでございますので、説明に対する質問を終わります。

続いて、委員間の自由討議を行いますが、御発言はございませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御発言もないようでございますので、自由討議を終わります。

以上で、「乳幼児期の支援について」を終わります。

「子ども子育て支援に関する事項」につきましては、引き続き調査を継続していくということで御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

◎中山裕司委員長

御異議なしと認めます。

本件については、引き続き調査を継続してまいります。

以上で、御審査いただきます案件は終わりましたので、これをもちまして教育民生委員会を閉会いたします。

閉会 午後 1 時37分

上記署名する。

平成30年11月20日

委 員 長

委 員

委 員